

指導の狙い

支払い方によっておつりの硬貨の枚数が変わることを調べ、どの支払い方が最も目的に合った支払い方を式や言葉を用いて表現することができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

B ①(2) 代金630円に対して、1030円よりも1130円を支払ったときの方が、おつりの硬貨の枚数が少なくなるわけを書く。 正答率 42.8%

学習指導要領における領域・内容

〔第3学年〕A 数と計算

(2) 加法及び減法の計算が確実にできるようにし、それらを適切に用いる能力を伸ばす。

ア 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

イ 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。

授業アイデア例

硬貨の枚数を減らす方法を考える場合(1単位時間の展開)

主な学習内容・活動

500円玉を1枚と、100円玉を2枚と、10円玉を2枚持っています。



320円の品物を買うとき、お金の出し方とおつりの硬貨の枚数との関係を調べてみましょう。



500円玉を出したらおつりはいくらになりますか。
また、おつりの硬貨の枚数は何枚になりますか。

500-320と計算すると、おつりは180円になります。
だから、100円玉が1枚、50円玉が1枚、10円玉が3枚になります。



おつりの硬貨の枚数は全部で5枚ですね。
おつりの硬貨の枚数を減らすためには、どのようにすればよいでしょうか。

20円を500円に加えて出せばいいと思います。
 $520 - 320 = 200$ で、おつりは200円になります。
200円は100円玉2枚になるので、500円を出したときよりもおつりの硬貨の枚数は少なくなります。



500円に20円を加えて出すと、おつりの硬貨の枚数が少なくなるのですね。

● 320円の品物に対して500円を出したときのおつりを考える。

● おつりの硬貨の枚数を減らすためのお金の出し方について考える。

● 2つの支払い方を比較して、どちらの支払い方が目的に合った支払い方を説明する。

1000円札を1枚、100円玉を2枚、50円玉を1枚、10円玉を5枚持っています。



630円の品物を買うとき、お金をいくら出すと、おつりの硬貨の枚数が一番少なくなりますか。



1000円を出したらおつりはいくらになりますか。
また、おつりの硬貨の枚数は何枚になりますか。

● 630円の品物に対して1000円を出したときのおつりを考える。

1000円を出すと、式は $1000-630=370$ で、おつりは370円になります。
370円は、100円玉が3枚と50円玉が1枚と10円玉が2枚で、全部で6枚になります。



1000円にいくらお金を加えて出すと、おつりの硬貨の枚数を減らすことができますか。ノートに書きましょう。



- 1000円にいくらか加えて、おつりの硬貨の枚数が少なくなる場合を考え、ノートに書く。

<ノート例>

1000円に30円くわえて出す

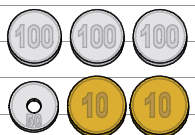
1000円を出したとき、 $1000-630=370$ で、おつりは370円。
100円玉3まい、50円玉1まい、10円玉2まいの6まいがおつり。

1000円に30円をくわえて出したとき、 $(1000+30)-630=400$
おつりは400円で、100円玉4まいになる。

おつりのこうかのまい数が少なくなるのは、
1000円に30円をくわえて出したときになる。

1000円に130円くわえて出す

1000円出すと、 $1000-630=370$ で、おつりは370円。
おつりのこうかのまい数は6まい。



1000円出したらおつりが370円なので、130円をくわえれば
 $(1000+130)-630=500$ おつりは500円玉1まい。



おつりのこうかのまい数が少なくなるのは、
1000円に130円をくわえて出したときになる。

30円より130円を加えて出すほうがおつりの硬貨の枚数が少なくなるのですね。

おつりの金額を基に考えればいいのですね。

3種類のお金の出し方をまとめてみましょう。



- 30円にさらに100円を加えると、おつりの硬貨の枚数が少なくなることを確認する。

<板書の例>

【3しゅるいのお金の出し方】

◎1000円出したとき

$1000-630=370$ 100円玉3まい 50円玉1まい 10円玉2まい

◎1030円出したとき

$\downarrow +30$
 $(1000+30)-630=400$ 100円玉4まい

◎1130円出したとき

$\downarrow +100$
 $(1000+30+100)-630=500$ 500円玉1まい



- 3種類のお金の出し方を提示し、それぞれの出し方におけるおつりの硬貨の枚数を比較する。
- 学習したことを振り返り、目的に合った支払い方を発表したり、ノートに記述したりする。

留意点

- お金の模型などを用いて具体的に数量を操作することで、おつりと支払う金額の関係について実感を伴った理解をすることができるようにする。
- 様々なお金の支払い方によって、おつりの硬貨の種類や枚数が変わる場合を比較して、その結果を言葉と数を用いて表現することができるようにする。